豊かな生命あふれる草原を

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
平成 23 年度（2011）報告書概要版

西日本有数のカルスト台地・秋吉台の上には、さまざまな動植物が生息・生育する広大なネザサ草原が広がっています。毎年の早春の山焼きで維持されているこの草原では、草を肥料や畑の敷きものとして利用するためにさかんに草刈りが行われていました。しかし、化学肥料や石油製品の利用が増えると草は生活に必要がなくなり、草原はどんどん森に変わってきました。

私たちは、秋吉台の草原について知り、考え、地元を応援しながら、豊かな生命あふれる草原を守っていくことをめざして活動を始めました。平成 23 年度は活動 4 年目になります。施設での行事を中心に、小学生の草刈り体験学習や企業のボランティア活動の受入れなどもおこなっています。

企業ボランティアによる草刈り

今年のクラフトは竹笛づくり

秋の観察会での説明風景

本郷小学校の体験学習で
ササ茶づくり

お花畑プロジェクト

梅雨明けごろに草刈りをすると、地表面近くまで届く光の量が増え、秋に咲く花茎の数が増えます。開花する種類が増えるだけではなく、そこに出現するすべての種数も増えます（図 1）。ところが、その後草刈りをしなければ 2 年後には花の数も種類も少なくなり、もとの状況にもどってしまうことがわかりました（図 2）。

草刈り跡に咲いた花

秋の観察会では、草刈り跡での開花状況を確かめてもらい、草原性植物が生育する環境を守る意義を説明しました。同時に、山口むしの会からもチョウの保全についてのお話がありました。草原の外から侵入してくるメダケを伐り、駆除したメダケを使って竹笛づくりも行いました。今年も農家に草を使ってもらい資源の循環につとめましたが、その農家のナシや、ご好意で提供いただいたサトイモなども行事参加者のおみやげに好評でした。

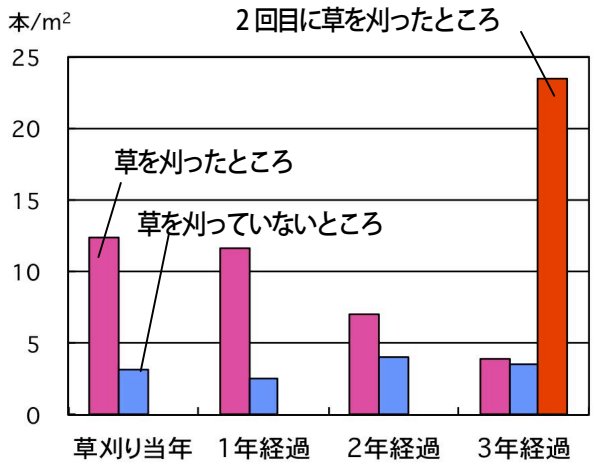


図１．開花茎数の変化

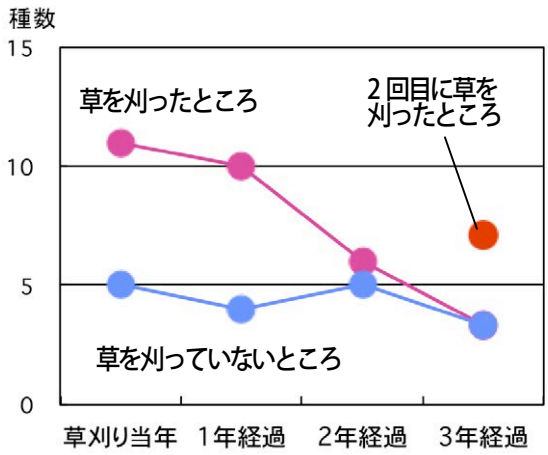


図２．開花種数の変化

草原の復元プロジェクト

秋吉台の重要な観光スポットである長者ヶ森の東側は 20 年前はクリ園がありました。耕作地として利用されたため、土壌には栄養分が蓄積され、草丈が高くなり低木がはびこるヤブになっていました。その場所でヤブを刈り払い、外来植物を駆除し草原の環境を取り戻すため、草刈り整備を続けています。

現在、復元作業地ではノイバラ等の低木はごく少なくなりました。替わって外来植物や畑地雑草が繁茂していますが、草刈りを続け、刈り草を持ち出した場所では外来植物が減少しつつあります（図 3）。また、セイタカアワダチソウについても草刈りの回数を年２回に増やした昨年以降、量が減りつつあります（図4）。これは土壌の栄養分が影響していると考えられますが、草を刈って持ち出すと土壌の栄養分が少なくなることがわかりました（図5）。

時間はかかりますが、今後も草刈りで草原を再生する方法を実証していきます。

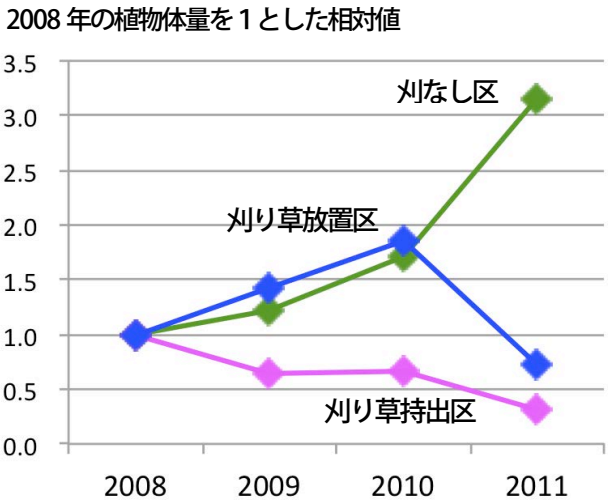


図３．すべての外来植物の現存量の推移

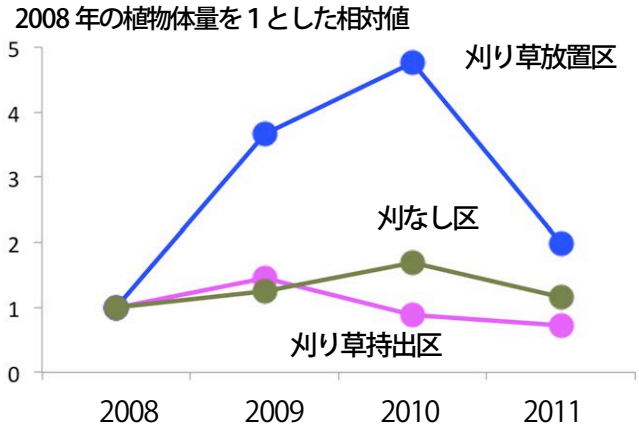


図４．セイタカアワダチソウ現存量の推移

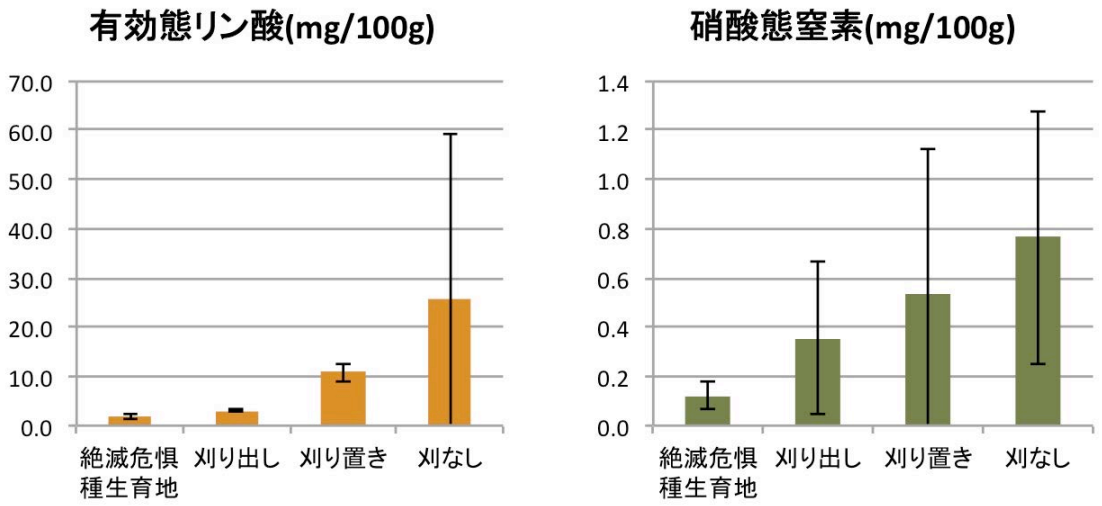


図5. 復元作業地の土壌中に含まれる肥料成分

遊歩道にお花畑づくり

通常、遊歩道の草刈りは夏や初秋に行われ刈り草は放置されるため、歩道沿いにはほとんど花が見られません。そこで、草刈り時期を７月に早め、刈り草を全て持ち出すことで、遊歩道沿いにも花が多くなるように整備をしています。刈った草は農家に引き取られます。草刈り方法を変えた結果、通常の草原の 2.3 倍の花が咲き、草原性の絶滅危惧種は昨年よりもかなり増えました。また、少し遅い８ 月末に整備した場合でも、刈った草が歩道にかぶ

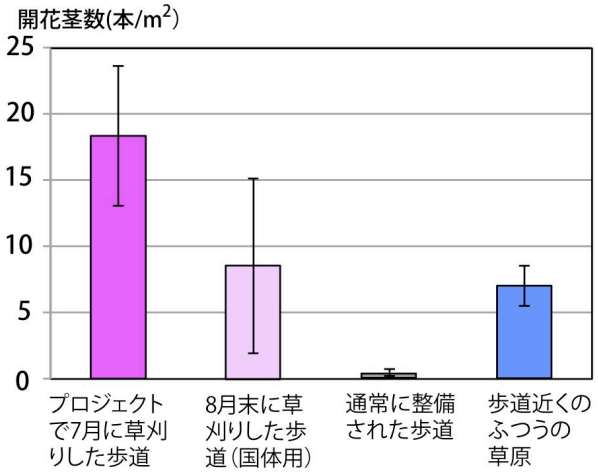
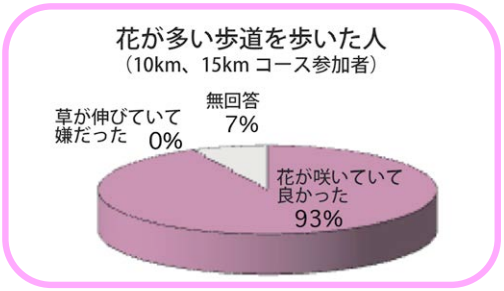


図6. 草刈り方法の違いによる開花数の差



カルストウォーク参加者アンケート結果

開花直前の整備で刈り残してもらいみごとに咲いた花

遊歩道沿いに咲いた花

さらないよう工夫することで、遊歩道沿いの花は多くなることがわかりました。

花が多くなった歩道は今年のウォーキング参加者にも好評でした。開花直前の遊歩道整備では、開花した花を残して草を刈るなど、事業者による協力もありました。

ドリーネ畑でのダイコンの種まき

連合山口の火道切りボランティアとの連携

プロジェクトでは、行事で刈った草のうち農家が持ち帰らなかった草や、火道切り（山焼きの防火帯作り）のボランティア作業での刈り草を使って、野草堆肥を作っています。ドリーネ畑で堆肥を使ってダイコンを育て、外部からのボランティア作業時のお昼ご飯と参加者へのおみやげに提供しました。

作業参加者 350 人のうち 200 人以上がドリーネ畑でダイコンを抜いていかれ、特に若い方々に好評でした。また、堆肥の中に育っていたカブトムシの幼虫や堆肥そのものもお持ち帰りいただきました。

秋吉台の草原を守ってくださることに感謝の気持ちを伝えることと同時に、草は資源として利用できることを実感してもらうよい機会になりました。

ダイコンは今年もよく育ちました

できあがってきた野草堆肥

堆肥の中にはカブトムシの幼虫が 200 匹！

ダイコンの間引き作業

草原の復元作業での刈り草も使う

秋吉台草原ふれあいプロジェクト

http://akiyoshidai.org/

事務局：秋吉台エコ・ミュージアム
〒754-0302 山口県美祢市美東町赤
Tel&Fax:08396-2-2622
E-mail: staff@akiyoshidai.org